



アプリで髭男爵に変身してみました！

MSQRD

今月の話題

ときどき忘れたところに、「はしか」の流行がテレビや新聞で話題になります。

2007年の大流行は、当時マスコミでさかんに報道されました。

10歳から30歳までの若い世代が多く発症し、大学・高校など260校以上が休校になりました。

子供のころに予防接種を受けたかどうか、あわてて母子手帳を確認したり、予防接種をうけようとする人が病院に殺到してワクチンが不足したりと、大騒ぎになりました。

例年「はしか」は、春から夏にかけて流行します。

今月は、これからの季節に注意しなければならない「はしか」についてお届けします。

～はしか～

- なぜ若者が
- 予防の決め手は予防接種
- 症状と治療
- 編集後記（輸出大国）
- お知らせ

グリーティングレター4月号（疾病編）

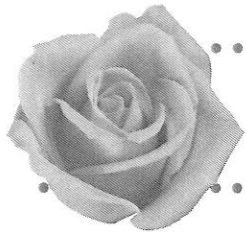
【発行】株式会社ATAC

【編集】青木 亮

【住所】〒292-0014 千葉県木更津市高柳1-8-1

【TEL】0438-41-6011 【FAX】0438-41-6006

【E-mail】aoki@atac.jp



～4月の疾病情報<はしか(麻疹)>～

● なぜ若者が

「はしか」は子供がかかる病気と考えられがちです。しかし、実際は4才以下の子供の患者は全体の15%以下にすぎません。患者の中心は、10代から20代の若者です。なぜ、このような若い世代を中心として「はしか」が流行するのでしょうか。

1990年頃に予防接種で使用されていた新三種混合ワクチン(はしか・おたふくかぜ・風疹の混合ワクチン)は、当時副反応が大きいことが問題にされていました。

副反応を嫌って、予防接種を控えた人が多かったようです。成人のなかで、予防接種をうけない人が増えていたことが、「はしか」流行の原因のひとつと考えられています。

子供に比べて成人が「はしか」にかかると、症状が重くなることが多いとされています。

「はしか」は恋に似て、「遅く罹ると始末が悪い」と言われるゆえんです。

● 予防の決め手は予防接種

「はしか」は、ウイルスによって引き起こされます。「はしか」のウイルスの感染力は非常に強く、空気感染します。免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症するといわれていますので、完璧な感染対策をとることは困難です。したがって、予防の決め手は予防接種しかありません。

日本では、2006年4月以降、就学前にワクチンを2回接種するよう法律が改正され、予防接種が徹底されることになりました。

● 症状

ウイルスに感染してからおよそ10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。

2～3日熱が続いた後、いったん熱は下がりますが、再び39度以上の高熱と、赤い発疹が出現します。やがて、熱が下がり始めると発疹は、出た順に消えていき、およそ10日ほどで回復します。

● 治療

いったん「はしか」に感染してしまうと、根本的な治療法はありません。

「はしか」の治療は、今のところ解熱、咳どめなど、不快な症状を緩和するものに限られています。

● 編集後記(輸出大国)

日本は、工業製品はもちろん、あらゆるものを世界中に輸出していますが、「はしか」のウイルスも外国に輸出していることをご存知でしょうか。

実は、日本は先進国のなかでは際立って「はしか」の対策が遅れていて、「はしか」輸出国と揶揄されています。

たとえば米国では、すでに「はしか」が制圧された状態にあります。

このような状況で、「はしか」の潜伏期間にある日本人が、米国に旅行に行き、現地で発症すると、滞在先に「はしか」のウイルスをばら撒くことになり、大きな迷惑をかけることとなります。

「はしか」のウイルスは非常に強力ですから、患者本人は隔離され、ホテルは消毒、同行者は検査…、これでは国際問題になりかねません。一日も早く「はしか」輸出国の汚名を返上したいものです。

● お知らせ

最後までお読みいただき、ありがとうございました。ご意見や感想など、お気軽にお寄せください。弊社からのご案内が不要の場合は、お手数ですが、その旨お知らせいただければ幸いです。

